

広島県大竹市におけるカラスバトの繁殖確認

上野 吉雄^{1*}・石井 秀雄²・井原 庸³・松本 明子⁴

¹ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・² 広島県立祇園北高等学校・³ 広島市安佐南区八木・
⁴ 山口県山口市赤妻町

The Breeding Records of the Japanese Wood Pigeon *Columba janthina* in Otake City, Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO, Hideo ISHII, Yoh IHARA, and Akiko MATSUMOTO

はじめに

カラスバト *Columba janthina* は本州・九州周辺の付属諸島, 伊豆諸島, 大隅諸島, 奄美諸島, 沖縄諸島に留鳥として分布し, 文化庁により天然記念物として, 環境省により準絶滅危惧種に選定され, 保護されている (永田 2014). 温暖な常緑広葉樹林に生息し, 液果や堅果を採餌する. 九州・本州の周辺の小島で繁殖しているため, その生息数, 生息状況や生態についての詳細は不明である (永田 2014). 近隣の島根県では隠岐諸島で繁殖しており, 絶滅危惧 I 類に選定されている (佐藤 2014). 山口県では光市牛島などで繁殖しており, 絶滅危惧 II 類に選定されている (山本・三宅 1994・小林 2018). 愛媛県では松山市小安居島で繁殖しており, 絶滅危惧 II 類に選定されている (十亀 2014). 広島県では呉市の無人島で 2017 年に確認され (上野ほか 2018), 情報不足に選定されている (広島県 2022).

筆者らは広島県大竹市猪子島においてカラスバトの繁殖を確認をしたので報告する.

調査地

カラスバトの繁殖を確認したのは広島県大竹市の猪子島である. 植生は高木層としてコナラ *Quercus serrata*, クスノキ *Cinnamomum camphora*, アカメガシワ *Mallotus japonicus*, カクレミノ *Dendropanax trifidus*, スダジイ *Castanopsis sieboldii* などが, 低木層としてヒサカキ *Eurya japonica*, ネジキ *Lyonia ovalifolia* var. *elliptica*, ミズバイ *Symplocos glauca*, ヤブツバキ *Camellia japonica*, ダンチク *Arundo donax* などが, 林床にはウラジロ *Gleichenia japonica*, ヤブコウジ *Ardisia japonica*, ヒトツバ *Pyrrosia lingua*, コシダ *Dicranopteris linearis* などが生育している (図版 1-A).

鳥類ではキジバト *Streptopelia orientalis*, トビ *Milvus migrans*, ミサゴ *Pandion haliaetus*, ハシボソガラス *Corvus corone* ハシブトガラス *C. macrorhynchos*, ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*, メジロ *Zosterops japonicus* などが繁殖し, 哺乳類ではイノシシ *Sus scrofa* やノネコ *Felis catus* などが見られる.

また, カラスバトが採餌場所として利用している阿多田島の植生は, ネズミモチ *Ligustrum japonicum*, スダジイ, アラカシ *Quercus glauca*, コナラ, アベマキ *Q. variabilis*, トベラ *Pittosporum tobira*, カクレミノ, サネカズラ *Kadsura japonica*, ハゼノキ *Rhus succedanea*, タマミズキ *Ilex micrococca*, ゴンズイ *Euscaphis japonica*, ソメイヨシノ *Prunus × yedoensis* cv. *Yedoensis*, タブノキ *Machilus thunbergii* などが見られる.

結果および考察

カラスバトの観察事例

2020年11月21日

阿多田島で鳴き声を確認.

2020年11月29日

9:00 阿多田島の小学校のそばで鳴き声を確認.

15:45 阿多田島の小学校のそばで3～4回鳴き声を確認.

15:50 1羽が阿多田島の小学校のそばを飛翔する.

2020年12月1日

10:55 阿多田島の本浦配水池のそばで鳴き声を確認.

2020年12月20日

10:15 1羽を阿多田島の本浦配水池の近くで確認.

12:00 1羽を阿多田島の本浦配水池の近くで確認.

2020年12月26日

11:25 1羽を阿多田島の本浦配水池の近くで確認.

11:40 1羽を阿多田島の本浦配水池の近くで確認.

12:00 1羽を阿多田島の本浦配水池の近くで確認.

12:45 1羽が阿多田島の本浦配水池の近くから出て猪子島の東の谷に入る.

13:10 1羽を阿多田島の本浦配水池の近くで確認.

2020年12月28日

7:30 1羽が猪子島の西の谷に入る.

8:45 1羽が猪子島の西の谷に入る.

10:04 2羽が猪子島から出て阿多田島の海の家方面に渡る.

10:09 1羽が猪子島から出て阿多田島の海の家方面に渡る.

2021年1月4日

7:40 1羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の海の家方面に渡る.

10:55 1羽が猪子島から出て阿多田島の住宅地方面に渡る (図版 1-B)

14:50 1羽が猪子島の中央の尾根から出て阿多田島の海の家方面に渡る.

15:25 1羽が猪子島の配水塔方面から来て猪子島の中央の尾根に入る.

15:40 1羽が阿多田島の本浦配水池方面から来て猪子島の西の林に入る.

16:10 1羽が阿多田島の海の家方面から来て猪子島の西の林に入る (図版 1-C).

16:25 1羽が阿多田島の小学校方面から来て猪子島の西の林に入る.

16:30 1羽が阿多田島の小学校方面から来て猪子島の東の林に入る.

16:45 1羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の本浦配水池方面に渡る.

17:00 1羽が猪子島の中央の尾根から出て阿多田島の本浦配水池方面に渡る.

2021年1月13日

- 7:20 1羽が猪子島から阿多田島の海の家方面の林に渡る.
- 7:20 2羽が阿多田島の海の家方面からきて猪子島の西の林に入る.
- 7:30 1羽が猪子島の西から出て阿多田島の小学校方面の林に入る.
- 7:50 3羽が猪子島の西の林から出て猪子島の東の谷に入る.
- 8:25 1羽が猪子島中央の尾根からでて阿多田島の海の家方面の林に渡る.
- 9:35 1羽が猪子島の中央の尾根から出て阿多田島の小学校方面の林に渡る.
- 11:15 1羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の小学校方面の林に渡る.
- 11:30 2羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の港方面の林に渡る.
- 12:55 1羽が阿多田島から帰ってきて猪子島の中央の尾根に入る.
- 15:55 1羽が猪子島の東の谷から出て阿多田島の本浦配水池方面の林に渡る.
- 16:15 2羽が猪子島の中央の尾根から出て阿多田島の海の家方面の林に渡る.
- 16:35 2羽が猪子島の中央の尾根から出て巡回して阿多田島の配水塔方面の林に渡る.
- 17:17 1羽が猪子島から出て阿多田島の小学校方面に渡る.

2021年1月16日

- 8:10 1羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の小学校方面に渡る.
- 8:45 1羽が阿多田島の海の家方面から来て猪子島の東の林に入る.
- 8:50 1羽が阿多田島の小学校方面から来て猪子島の東の林に入る.
- 10:10 2羽が猪子島の中央の尾根から出て阿多田島の海の家方面に渡る.
- 10:30 1羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の海の家方面に渡る.
- 11:15 1羽が猪子島の東の林に入る.
- 12:20 1羽が猪子島の中央の尾根上に出て巡回後、再び尾根に入る.
- 13:25 1羽が猪子島の西から来て中央の尾根に入る.

2021年1月24日

- 8:00 1羽が猪子島の中央の尾根から出て阿多田島の海の家方面に渡る.
- 10:20 1羽が阿多田島方面から来て猪子島の西の林に入る.
- 12:45 2羽が猪子島の西から来て東の林に入る.
- 12:46 1羽が阿多田島方面から来て猪子島の西の林に入る.

2021年1月25日

- 8:40 1羽が猪子島の西の林から来て猪子島の南に飛ぶ.
- 10:40 1羽が猪子島の西から来て猪子島の東の林に入る.
- 14:20 1羽が猪子島の中央の尾根から阿多田島の海の家方面に渡る.
- 14:50 2羽が猪子島の西を飛んで阿多田島の海の家方面に渡る.
- 16:10 2羽が猪子島の中央の尾根から出て阿多田島の海の家方面に渡る.
- 16:22 1羽が猪子島の西から来て猪子島の東の林に入る.
- 16:35 1羽が猪子島の中央の尾根上に出て阿多田島の海の家方面に渡る.
- 17:05 1羽が猪子島の西から来て猪子島の中央の谷に入る.

営巣場所である猪子島の林内での観察記録

2021年1月30日

- 12:45 2羽が島の西から東の端に飛ぶ.
- 14:05 1羽が谷の上部の枝に止まりすぐに飛び去るのを確認.
- 16:00 1羽が谷中腹の枝に止まり, 1羽が地上で採餌するのを確認.

2021年2月6日

- 10:00 1羽が谷の上部の枝に止まりすぐに飛び去るのを確認.
- 10:40 1羽が地上で採餌するのを確認.
- 11:25 1羽が地上で採餌するのを確認.
- 11:45 2羽が地上で採餌するのを確認.
- 14:05 鳴き声を確認.
- 14:25 2羽が飛び去るのを確認.
- 15:10 2羽が地上で採餌するのを確認.
- 15:40 ~ 14:50 鳴き声を6回確認.

2021年2月13日

- 12:50 2羽が谷に飛来する.
- 12:50 2羽が地上で採餌するのを確認.
- 13:30 つがいが枝に止まるのを確認.
- 14:00 成鳥(図版1-D)と巣立ち約1か月の幼鳥を(図版1-E)確認.
- 15:00 地上で採餌するのを確認(図版2-A).
- 16:20 3羽が歩いて尾根向こうに消失する.

2021年2月20日

- 7:20 4羽が阿多田島から来て猪子島の林に入る.
- 7:30 2羽が阿多田島から来て猪子島の林に入る.

2021年2月23日

- 17:20 2羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の配水塔方面に渡る.
- 17:40 親子3羽が猪子島の西の林から出て阿多田島の配水塔方面に渡る(図版2-B).

2021年3月3日

- 17:10 1羽が猪子島の東の林から出て阿多田島の配水塔方面に渡る.
- 17:40 2羽が猪子島の東の林から出て阿多田島の配水塔方面に渡る.
- 17:50 1羽が猪子島から出て阿多田島の小学校方面に渡る.

2022年1月29日

- 17:00 猪子島で巣立ち直後の幼鳥を確認.

2022年2月19日

- 8:40 猪子島で巣を確認.

2022年8月12日

- 7:45 阿多田島での避難所の上の山林で1羽のディスプレイフライトを確認.
- 8:00 1羽が猪子島から阿多田島方面に渡る.
- 11:00 阿多田島で1羽が避難所の上の山林の枝に止まっているのを確認.
- 11:45 阿多田島の谷で鳴き声を確認.

2月13日の観察でカラスバトの成鳥と幼鳥を区別することができた. 幼鳥は体毛の表面に凹凸が見られ, 体色も成鳥ほど鮮やかでない. 顔面は灰色で, 首の後ろの水色光沢も薄い. 足指が成鳥より色が薄く (図版 1-E), 成鳥は足指の色が濃い (図版 1-D).

観察上から推定したカラスバトの繁殖スケジュール

1月13日から2月6日までの観察で2羽での行動が頻繁に見られたことから, 1月中旬にヒナが体温維持をできるようになり, メスが抱雛をやめてオスと連れ立つようになったと推察される. このことは, 近縁のアカメカラスバト *Columba vitiensis* では, 抱卵日数は17~19日, ヒナは21日くらいで巣立つ (中村・中村 1995) ことから支持される.

表1に猪子島におけるカラスバトの推定繁殖スケジュールについて示す.

表1 1島におけるカラスバトの推定繁殖スケジュール

10月			11月			12月			1月			2月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	求愛期		造巢		産卵	抱卵			ふ化	抱雛		巣立ち		幼鳥移動

2月20日の観察では, 猪子島の営巣場所ではカラスバトが見られなくなったことから, 幼鳥が営巣場所を離れたと推察される. また, 2月23日の観察では, ほとんど島間移動が見られなくなった. このことから, カラスバトが繁殖を終えたので営巣場所である猪子島と採食場所である阿多田島との頻繁な往復の必要がなくなったためであると推察される. 猪子島におけるカラスバトの繁殖期は11月から2月であり, 山口県光市牛島では11月から3月に繁殖しており (山本・三宅 1994), 山口県上関町宇和島でも12月から2月にかけて繁殖を確認しており (村本・小林 2021), 瀬戸内海の島では11月から3月にかけて繁殖するようである. 一方, 宮崎県の枇榔島と子枇榔では3月から10月にかけて営巣が確認されており (中村・児玉 2001), 伊豆諸島でも2月から9月にかけて, 特に5月から6月にかけて多いようである (樋口 1997).

2022年1月29日に猪子島でカラスバトの巣立ち直後の幼鳥を確認した. 胸部には幼綿羽が残り, 常緑樹の地上約10mの位置を枝移りしていた (図版 2-C).

2022年2月19日に猪子島でカラスバトの巣を確認した. 営巣林には高木層としてカクレミノ, ナンキンハゼ *Triadica sebifera* などが, 低木層としてヒサカキ, ヤブツバキ, ミミズバイなどが見られ, 林床には植生が見られなかった (図版 2-D). 巣は胸高直径約15cmのカクレミノの地上約10mの位置の横枝上に置かれていた (図版 2-E). 巣は直径約40cmで, 内巣には枝が敷き詰められていた.

山口県光市牛島ではカラスバトはほとんど地上営巣であることが報告されている (山本・三宅 1994). また, 宮崎県の枇榔島と子枇榔でも地上営巣である (中村・児玉 2001). 牛島ではへびなどの地上性捕食者がいない冬季に繁殖し, 枇榔島と子枇榔には, は虫類や哺乳類などの地上性捕食者が全く生息していないことが, カラスバトの地上営巣を定着させたと考えられている. 今回, カラスバトの営巣を確認した猪子島ではイノシシやノネコなどの地上性捕食者が生息しているため, 樹上営巣していると考えられる.

謝辞

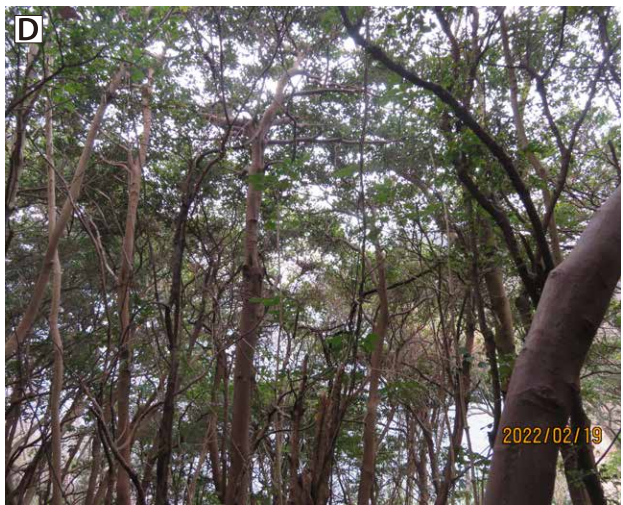
本調査を行うにあたり、阿多田島におけるカラスバトの情報を提供していただいた広島県環境保健協会の中西毅氏、調査に協力していただいた鳥取県米子市の北岡享一氏と岡山県津山市の柳瀬美幸氏、植物の同定をしていただいた中外テクノス株式会社の佐久間智子氏に心からお礼を申し上げる。

引用文献

- 樋口 広芳（1997）カラスバト．日本動物大百科 鳥類Ⅱ，20 平凡社 東京
- 広島県（2022）広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第4版）ーレッドデータブックひろしま 2021 ー，広島県
- 小林 繁樹（2019）カラスバト．山口県の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックやまぐち 2019 ー，山口県
- 村本 和之・小林 繁樹（2021）カラスバト．山口県版鳥類繁殖分布調査報告書 2017（種別解説編），54 日本野鳥の会山口県支部
- 永田 尚志（2014）カラスバト．日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類，230 環境省
- 中村 登流・中村 雅彦（2015）原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>，保育社 大阪
- 中村 豊・児玉 純一（2001）宮崎県の枇榔島と子枇榔におけるカラスバト *Columba janthina janthina* の地上営巣例．日本鳥学会誌，50:37-41
- 佐藤 仁志（2014）カラスバト．改訂 しまねレッドデータブック 2014 動物編，38 島根県
- 十亀 茂樹（2014）カラスバト．愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物ー愛媛県レッドデータブック 2014 ー，愛媛県
- 上野 吉雄・石井 秀雄・井原 庸・松本 明子・原 竜也・渡辺 健三・畑瀬 淳・梅田 加奈子・佐藤 周平・林 臨太郎・奥山 秀輝・平野 勝士・岩崎 貞治・大塚 攻（2018）広島県におけるカラスバトの記録．高原の自然史，18：63-65
- 山本 健次郎・三宅 貞敏（1994）光市牛島におけるカラスバトの生息状況と生態．山口県立山口博物館研究報告，20：1-25



A : カラスバトの生息環境	2021年2月23日
B : 猪子島から阿多島へ (そ嚢が膨らんでいない)	2021年1月6日
C : 阿多田島から猪子島へ (そ嚢が膨らんでいる)	2021年1月6日
D : カラスバトの成鳥	2021年2月13日
E : カラスバトの幼鳥	2021年2月13日



A : 地上で採餌するカラスバト 2021年2月13日
B : カラスバトの親子 2021年2月23日
C : カラスバトの巣立ち直後の幼鳥 2022年1月29日
D : 営巣環境 2022年2月19日
E : カラスバトの巣 2022年2月19日